



二階堂 雅彦 先生

略歴

1981年 東京歯科大学卒業
 1981～84年 同歯科麻酔学教室
 1997年 タフツ大学歯学部歯周病学大学院修了，アメリカ歯周治療専門医
 2003年 アメリカ歯周病学ボード認定専門医，日本臨床歯周病学会指導医
 2006年～ 東京歯科大学水道橋病院 臨床教授
 2008年～ 東京医科歯科大学歯周病学分野 非常勤講師
 2015～17年 日本臨床歯周病学会 理事長

医療法人嚙矢会 二階堂歯科医院 理事長（東京都中央区）（現在）



阿部 伸一 先生

略歴

1983年 芝高等学校卒業
 1989年 東京歯科大学卒業
 1993年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）
 1994年 ドイツベルリン自由大学留学
 2008年 台北医学大学 臨床教授
 2010年 東京歯科大学解剖学講座 教授



浦野 智 先生

略歴

1988年 大阪歯科大学卒業
 1992年 医療法人貴和会歯科診療所 勤務
 1999年 大阪市北区にて開業

所属・役職

日本臨床歯周病学会 理事長 指導医
 日本歯周病学会
 アメリカ歯周病学会
 東京歯科大学 客員講師
 東京医科歯科大学 非常勤講師
 The Japan Institute for Advanced Dental Studies 理事

歯周領域における再生的アプローチ ーその現状と課題ー

東京歯科大学水道橋病院／東京都開業 二階堂 雅彦
東京歯科大学解剖学講座 阿部 伸一
大阪府開業 浦野 智

歯周領域における進歩を支えるキーワードは「再生」である。本シンポジウムでは、その定義を単に「歯周組織再生療法」を指すだけでなく、インプラントとそれに関連する外科、また軟組織移植術など、いわゆるペリオドンティストの役割と考えられている部分にまで範囲を広げて議論したい。

再生療法は、GTR法の紹介を機に80年代後半より臨床応用され、90年代初頭はペリオドンティストの役割の変換期であった。すなわち従来の歯周炎に対する歯周ポケット治療を中心とするものから、インプラントとそれに付随する外科、また軟組織マネジメントが歯周治療の世界に大きく導入された。それは我々の治療をバリエーティ豊かにしたものであったが、同時に未知の領域に足を踏み入れることでもあった。近年その適応症はさらに拡大され、予知性も高まってきた。術式においては、創傷治癒の原理を理解した上でより再生が起こりやすい環境を提供するとの概念から、切開線の位置や歯肉弁の取り扱いに配慮がなされ、さらに外科的侵襲を最小限にする目的から、マイクロスコープの導入やそれに伴う器具、材料が導入されてきた。また、骨欠損形態により使用する材料を選択したり、他の材料を併用する場合には、その組み合わせについても考慮されている。そして世界初の再生治療薬bFGF製剤（リグロス®）が発売され、ますますこの分野に活況を与えている。しかしながら、いまだに解明できない問題も多々残されている。近年は再生療法の適応拡大により、従来であったら抜歯適応と考えられた歯にも適応されることがあるが、果たして「再生」が本当に起きているのか、また範囲を広げれば、結合組織移植術後の止まらない角化歯肉の増大、経年的にみられるインプラントと隣在天然歯の不調和などである。

そこで本シンポジウムでは、ペリオドンティストとして最新の技術を安全確実に提供するため、歯周領域における再生的アプローチの最新プロトコールをお示ししながら、我々が知っておくべき基礎的事項の解説も交え、議論を深めたい。